東日本大震災被災地入学者のための奨学金授与式を挙行 ― 看護専門学校

東日本大震災の被災地から医学部附属看護専門学校に入学した学生を支援する「昭和大学医学部附属看護専門学校東日本大震災被災地入学者のための奨学金」の授与式を5月9日、同校で挙行した。

この奨学金は、高須克弥客員教授（高須クリニック院長）の篤志により平成24年度に創設された制度で、平成27年度からは大学がその精神を引き継いで実施している。奨学生には1年次に奨学金と学生寮の寮費が給付される。

式では、小出良平学長から21人の学生一人一人に奨学金が授与された。奨学生代表の阿部日南子さん（1年生）は「両親への負担を減らせるこの奨学金制度のおかげで安心して勉学に励むことができる」と感謝の言葉を述べた。また、昨年度の奨学生代表の関場麻友さん（2年生）は、謝辞に続けて「震災を経験して知った命の大切さや人の温かさを忘れず、看護師として社会に貢献していきたい」と将来への決意をあらたにした。

戴帽式　看護専門学校

ナイチンゲールの誕生日に当たる5月12日、第53回医学部附属看護専門学校戴帽式が多くの来賓や父母らが見守る中、上條講堂で挙行された。

ナイチンゲールが夜中にろうそくを片手に負傷者を見回った故事に習い、頭にナースキャップを戴せた2年生154人が火を灯した燭台を手に場内を一周すると、会場は厳かな雰囲気に包まれた。

久光正学校長は告辞で「これからの病院実習やさまざまな学習を通じて、専門知識に裏付けされたプロフェッショナルな看護師になるための努力を続けてほしい」と述べた。

戴帽式を終えた学生は、「真心を込めて実習に行くことが大切だと感じた」「ナースキャップをもらって先生方の言葉を聞き身が引き締まった」と語っていた。

心臓手術した人も一緒にジョギング&ウォーキング大会

（江東豊洲病院リハビリテーション科　准教授　笠井史人）

去る4月2日、「After Surgery Fun Run心臓手術した人も一緒にジョギング&ウォーキング大会」が開催されました。手術後の人や身体に障害のある人と市民が一緒に参加したこのイベントは、江東豊洲病院で心臓手術を受けた患者さんの発案に病院が運営をサポートしたものです。本学公認サークルの「ベイエリアランナーズ」が中心になった実行委員会が主催し、江東区の後援、地元の企業・小学校・地域包括支援センターの協力のもと、元患者さんと病院職員で準備した手作りの大会となりました。参加者105人、スタッフは病院職員28人を含む80人のボランティアです。参加者の3割はなんらかの健康不安をもつ方々で、病院の後援に安心して、運動再開のきっかけになったと感想をいただきました。

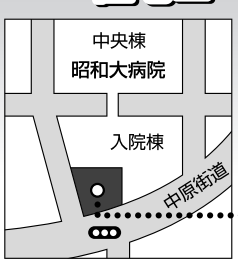
アスリート職員が品川区立第二延山小学校で講演会

4月26日、アイスホッケー女子日本代表メンバー（平昌オリンピック最終予選）で本学アスリート職員の獅子内美帆選手、藤本もえこ選手、浮田留衣選手、そして飯塚祐司コーチの4人が、オリンピック・パラリンピック教育の一環として、品川区立第二延山小学校の全校児童を対象に講演会を行った。

このイベントは子どもたちに夢や目標に向かって頑張ることの素晴らしさや、支えてくれる人に感謝することの大切さを知ってもらうことを目的に企画された。

選手とコーチから、ソチオリンピックの体験談や来年開催される平昌オリンピックへの意気込みを、子どもたちは目を輝かせて話を聞いていた。講演後には、手作りの大きな金メダルが選手たちにプレゼントされた。

お気軽にご相談を!!
◆ 万が一のための保障準備
◆ 住宅ローン・資産運用 など



お問い合わせ・ご予約は
三井住友銀行 旗ノ台支店
東京都品川区旗の台1-4-15
TEL. 03-3785-3012

SMBC 三井住友銀行